

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施 策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する			
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	文化振興ビジョンに基づき、市民の主体的な文化活動や交流を支援するとともに、子どもたちへの多様なアプローチを進めるなど、新しい担い手の発掘と育成を図ります。また、歴史遺産の保存と活用を推進し、拠点施設の機能充実を図り、市民の郷土愛を育むことで、歴史文化遺産を発展的に継承します。				
4	担当課	主担当課 (記入者)	部 名	課 名	課長名	
			市民文化部	文化振興課	庄田 哲也	
		関連課	まち魅力発信課、社会教育振興課、中央図書館			
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-3-1	市民との協働による文化のまちづくり			
		3-3-2	★文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり			
		3-3-3	★未来へ向けた文化芸術の担い手の育成			
		3-3-4	★歴史遺産の保存・継承			
		3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成			

2 H27年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。
評価理由(施策の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)			
協働による文化のまちづくりを進めるため、提案公募型公益活動支援事業補助の予算を拡充し、採択件数が平成26年度の2件から7件に増加したほか、茨木市文化芸術推進市民会議を開催し、市民及び文化関係団体、大学等が協働で文化振興ビジョンを推進する基盤づくりができるなど、市民の主体的な文化活動や交流は盛んになっています。 文化芸術の「場」づくりとして、文化施設等の修繕等を適宜行うほか、市民会館閉館に伴って、市内公共施設や立命館いばらきフューチャープラザの活用を案内・周知しました。市民ギャラリーには34,485人の来場が、また、文化振興イベントには19,066人の参加があったことから、鑑賞等の機会は充実しています。 未来へ向けた文化芸術の担い手の育成としては、「HUB-IBARAKI ART COMPETITION」を開催し、若手芸術家の育成に努めました。川端康成文学館俳句コンクールの学生応募者数は、俳人・坪内稔典氏を講師に迎えたことによって、平成26年度の722件から平成27年度の1,381件に増加しました。このように次世代の文化芸術の担い手となる若者の育成は進んでいます。			
2	歴史遺産の保存・継承として、市民のみなさんが文化財に親しみ、理解してもらうため、文化財資料館ではテーマ展など公開事業等を通じて啓発に取り組み、見学者数が増加しました。文化財は公開と保存のバランスも必要であることから、キリシタン遺物のうちメダイ8点の高精度複製品を製作し、展示や他市との貸出交流の充実を図りました。また、「隠れキリシタンの里」紹介DVDの英語版も完成し、海外からの来館者への対応も向上しています。史跡指定を目指して調査を継続している千提寺菱ヶ谷遺跡についても、用地を取得し、調査成果についても現地説明会を開催するなどPRに努めました。歴史的建造物調査として市内寺社186件の予備調査を実施し、埋蔵文化財発掘調査により出土した遺物の整理及び台帳作成を進め、その成果に基づく報告書も刊行するなど、保存と活用に向けた事業を展開しました。なお、『新修茨木市史』については、「通史2(近世)、通史3(近現代)」の刊行作業をすすめ、次年度の全巻刊行終了を目指しています。 郷土への愛着心とブランド形成については、川端康成文学館開館の30周年を記念して、生誕月記念企画展や市立ギャラリーにおける館蔵品展を実施し、本市における文化の特色として川端康成文学館を周知しました。課題としては、年間入場者が平成26年度の8,514人から7,258人に、夏休み企画展の入場者も平成26年度の1,126人から746人に減少していることから、市民及び市内外の方に積極的に周知していくほか、文学館に足を運んでもらえるような魅力的な企画や展示を実施する必要があります。		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

3 H28年度の施策の進め方

協働による文化のまちづくりを進めるため、提案公募型公益活動支援事業補助の予算を60万円から80万円に拡充し、市民や団体による主体的な文化芸術活動を支援するほか、文化芸術推進市民会議と文化振興施策推進委員会の連携により、文化振興ビジョンを具体的かつ確実に推進するための取組を検討するとともに、市民と芸術をつなぐ人材の育成に努めます。具体的な取組として、文化芸術推進市民会議において、市内の若手芸術家をゲストに招き「HUB-IBARAKI ART PROJECT」の活性化に向けたワークショップを行います。 文化芸術の「場」づくりとして、適宜、文化施設等の修繕等を行うことによって、鑑賞や発表の機会を確保するとともに、市内公共施設の案内や平成28年6月から開始する立命館いばらきフューチャープラザの市民先行予約の活用について周知を行い、市民の文化芸術活動を支援します。また、各種文化振興イベントや「まちなかアートツアー」を実施し、市民が文化芸術活動にふれる機会や芸術作品を身近に感じてもらう機会を提供します。 未来へ向けた文化芸術の担い手の育成としては、川端康成文学館において、夏休み企画「川端康成って知ってる？」や俳句コンクールを実施するなど、若い世代を対象としたイベントを開催します。本市在住や本市にゆかりのある若手芸術家の更なる活躍を支援するため、若手芸術家育成事業「HUB-IBARAKI ART」については、過去に選定された若手芸術家の中から市内在住の方をフィーチャーし、公共施設等を活用したアートプロジェクトを実施します。 歴史遺産の保存と活用を推進するため、キリシタン遺物のうち「天使讃仰図」「殉教者立像」の高精度複製品を製作し、展示及び他市との貸出交流等により、集客数の増加に努めます。千提寺菱ヶ谷遺跡の調査及び市民開放に向けた園路整備などに取り組めます。市内の歴史的建造物（寺社）調査では前年度実施した予備調査の結果を受け、対象を絞り込んで本調査を実施するほか、埋蔵文化財発掘調査では出土した遺物の整理及び台帳作成等を実施することで、迅速な発掘調査報告書の刊行及び展示公開等への活用にも努めます。また、市史編さん事業では索引・年表の刊行と、「全巻発刊記念シンポジウム」を開催するとともに、新規事業として「市史収集史料保存活用事業」を実施して公開に向けた収集史料のデータベース化を進めます。 郷土への愛着心とブランド形成については、川端康成文学館展示室のリニューアルを行い、常設展示及びギャラリーにおいて、魅力的で効果的な展示を行い、集客数の増加に努めます。夏休み企画展についても、川端康成をモチーフにしたプラバン作りやクリアファイルを景品としたクイズを実施するなど、内容の充実を図るとともに、青少年課で実施するイベントでチラシを配布するなど、周知を強化します。
--

4 今後の進め方

H29年度以降の施策の方向性		
1	協働による文化のまちづくりを進めるため、提案公募型公益活動支援事業補助を柱とし、市民や団体による主体的な文化芸術活動を支援するほか、文化芸術推進市民会議と文化振興施策推進委員会の連携により、文化振興ビジョンを具体的かつ確実に推進する取組を実施するとともに、市民と芸術をつなぐ人材の育成に努めます。 文化芸術の「場」づくりとして、適宜、文化施設等の修繕等を行うことによって、鑑賞や発表の機会を確保するとともに、市内公共施設の案内や立命館いばらきフューチャープラザの市民先行予約の活用について周知を行い、市民の文化芸術活動を支援します。各種文化振興イベントや「まちなかアートツアー」を実施し、市民が文化芸術活動にふれる機会や芸術作品を身近に感じてもらう機会を提供します。 未来へ向けた文化芸術の担い手の育成としては、若い世代を対象としたイベントの開催を検討します。また、文化芸術を活用したまちづくりの推進にあたっては、若手芸術家育成の観点から踏まえて検討します。 歴史遺産の保存と活用を推進するため、引き続きキリシタン遺物の高精度複製品製作・展示に取り組むほか、千提寺菱ヶ谷遺跡の史跡指定に向けた調査も継続して行い、北部地域の活性化につながる取組を進めます。歴史的建造物（寺社）調査では予備調査の結果に基づき本調査を引き続き実施するほか、埋蔵文化財では出土遺物の整理及び台帳作成を継続的かつ着実に進めることにより、発掘調査結果の活用・発信並びに文化財保護の啓発に努めます。市史収集史料保存活用事業では、編さん過程で収集した資料の活用のためHP等での資料公開を進めるとともに、文献資料を市民が自由に利用できるよう閲覧コーナーの設置を検討します。 郷土への愛着心とブランド形成については、川端康成ゆかりの地であることなど、多様な茨木市の文化的な特性をいかした魅力的な取り組みを実施し、市内外に積極的な情報発信を行います。	
2	H29年度以降の行財政改革の推進	該当する主な行革指針の具体的項目
	文化芸術推進市民会議と文化振興施策推進委員会の連携を通じて、市民、事業者・団体と市が課題や情報を共有することで市民の声が反映された施策の推進に努めるとともに、各主体が新たな事業や取組を実施する機会を提供します。 今後は、市史編さん室の機能や史料を円滑に保存・活用できるよう、効率的な組織運営を目指します。	1-1 多様な担い手との協働のまちづくりの推進
		4-1 効率的な組織運営

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する		

5 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取 組	3-3-1	市民との協働による文化のまちづくり						
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	庄田 哲也		
3	関係課								
4	目 標 (前期基本計画より)	市民の多様性、自主性を尊重することによる市民との協働や文化振興財団、文化芸術団体、大学等との連携により、文化芸術活動が活性化しています。							
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)			内 容					
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価		評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)					
		b		提案公募型公益活動支援事業補助の予算を拡充したことによって、採択件数が平成26年度の2件から7件に増加するほか、市立ギャラリーの稼働率が96%に達するなど、市民や団体による主体的な文化芸術活動が活発に行われました。 また、茨木市文化芸術推進市民会議を開催し、市民及び文化関係団体、大学等の連携・交流を図り、協働で文化振興ビジョンを推進する基盤づくりを行うとともに、市民と芸術家・文化芸術団体をつなぎ、芸術への理解を促し、情報を発信する役割を果たす人材の育成に努めました。					
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ							
		参考指標			単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
							H26年度	H27年度	
		市立ギャラリー稼働率			%	→	98	95.7	97(H31)
		市民会議の参加者アンケート、SNS記事の好意的な評価数			件	↗	—	18	200(H31)
提案公募型公益活動支援事業補助採択件数			件	↗	2	7	8(H31)		

1	取 組	3-3-2	★文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	庄田 哲也
3	関係課	中央図書館					
4	目 標 (前期基本計画より)	市内には文化芸術活動を行うことができる「場」として、文化施設等が数多くあり、音楽活動や美術作品の創作活動など、市民の活発な文化芸術活動を支えています。さらなる文化振興のためには、鑑賞や発表の機会の充実のため、施設整備を行い、鑑賞や実践の機会を設ける必要があります。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる（文化・観光による魅力向上）	内容	イベント開催等により、気軽に文化芸術に触れる場づくり			
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)				
		b	音楽活動や美術作品の創作活動など、市民の活発な文化芸術活動を支えるため、適宜、文化施設等の修繕等を行い、鑑賞や発表の機会を確保しました。 平成27年12月末の市民会館閉館に伴い、市民会館を利用されていた方や団体に、市内公共施設や立命館いばらきフューチャープラザの活用を案内・周知しました。 市民ギャラリーには34,485人の入場が、また、文化振興イベントには19,066人の参加があり、多くの市民が文化芸術にふれることができました。 「まちなかアートツアー」を「HUB-IBARAKI ART COMPETITION」と連携して実施し、30人の市民に芸術作品を身近に感じてもらう機会を提供しました。				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H26年度	H27年度	
		市立ギャラリー入場者数	人	→	39,002	34,485	39,000(H31)
		文化振興イベント参加者数	人	↗	20,924	19,066	21,000(H31)
まちなかアートツアー参加者数	人	→	20	30	30(H31)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施 策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する		

★:重点プラン該当取組

★：重要プラン該当取組

1	取 組	3-3-3	★未来へ向けた文化芸術の担い手の育成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	庄田 哲也
3	関係課						
4	目 標 (前期基本計画より)	文化芸術の教育現場による活用や、若手芸術家の育成などにより、次の世代が、未来に向かって育っています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる（文化・観光による魅力向上）	内 容	若手芸術家の育成・活動環境の形成			
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由（取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等）				
		a	市民自らがさまざまな文化芸術活動に取り組み、定期的な公演や大会などに参加しました。また、「HUB-IBARAKI ART COMPETITION」を開催し、若手芸術家の育成に努めるとともに、優れた作品をクリエイティブセンターに設置し、市民に身近に感じてもらう機会を提供しました。川端康成文学館俳句コンクールの学生応募者数は、俳人・坪内稔典氏を講師に迎えたことによって、平成26年度の722件から平成27年度の1,381件に増加しました。				
		a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
					H26年度	H27年度	
		川端康成文学館俳句コンクール 学生応募者数	件	↗	722	1,381	1,400(H31)
「HUB-IBARAKI ART」発表会（関連イベント）参加者数	人	→	20	20	20(H31)		

1	取 組	3-3-4	★歴史遺産の保存・継承				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課	まち魅力発信課					
4	目 標 (前期基本計画より)	多くの市民がキリシタン遺物や銅鐸鋳型など、本市の貴重な歴史遺産や文化財に親しむ機会が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる（文化・観光による魅力向上）	内 容	貴重な文化財の市への移管促進			
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)				
		a	キリシタン遺物であるメダイ 8 点の高精度複製品を製作し、キリシタン遺物史料館企画展において H28. 3. 2より公開しています。また、同館にて放映している「隠れキリシタンの里」紹介DVDの英語版も完成し、海外からの来館者への対応が向上しました。 市内の歴史的建造物調査においては、市内寺社186件すべての予備調査が完了しました。H28年度の本調査に向けて、対象の絞り込みを行うなど準備中です。 埋蔵文化財発掘調査による出土遺物の整理及び台帳作成は順調に進行しており、その成果に基づく報告書も刊行します。 『新修茨木市史』『通史2(近世)、3(近現代)』を次年度中に発刊するため編さんを進め、次年度での全巻刊行終了を目指します。				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H26年度	H27年度	
		文化財資料館テーマ展見学者数	人	↗	2,692	2,815	—

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

★：重点プラン該当取組

※：重要プラン該当取組

1	取 組	3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	庄田 哲也
3	関係課						
4	目 標 (前期基本計画より)	“茨木市らしさ”を形成する大切な文化資源を今後も大切に保存・継承することで、“茨木らしさ”を大切にする気持ちや茨木市に対する愛着が育まれています。 また、多くの市民が文化のまちとしての誇りを持てるブランドが形成されており、市内外に情報が発信されています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)			内 容			
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)				
		b	川端康成文学館開館30周年を記念し、生誕月記念企画展や市立ギャラリーで館蔵品展を実施するなどを通じて、茨木市における文化の特色として川端康成文学館を周知しました。 年間入場者が平成26年度の8,514人から7,258人に、夏休み企画展の入場者も平成26年度の1,126人から746人に減少していることから、市民及び市内外の方に積極的に周知していくほか、文学館に足を運んでもらえるような魅力的な企画や展示を実施する必要があります。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H26年度	H27年度	
		川端康成文学館入場者数	人	↗	8,514	7,258	8,550(H31)
川端康成文学館夏休み企画展入場者数	人	↗	1,126	746	1,200(H31)		

6 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～5に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する
2	学識経験者	立命館大学経営学部 肥塚 浩 教授	
3	意見等	・「施策の現状と課題」において現状認識と課題設定が概ね適切になされており、一定の取組の成果があがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考え。 ・なお、総合評価の評価理由、平成28年度の施策の進め方、平成29年度以降の施策の方向性、平成29年度以降の行財政改革の推進の記述の表現は分かりやすい。 ・5つの取組の評価のうち4つは概ね適切であると考え。ただし、取組3-3-2については、参考指標「私立ギャラリー入場者数」がかなり減少しており、「文化振興イベント参加者数」も若干減少していることについての評価は甘いのではないかと。前者は現状維持方向を目指していることに対して大幅に減少している要因と課題、後者は増加を目指しているが減少している要因と課題について明記すべきだと考える。	